

(1) 北秋田市・大阿仁地区

① 取組内容と実施スケジュール

モデル自治体・地区では人口分析・推計に加えて現地調査・ヒアリング、2回のワークショップ、市町報告会を実施した。以下が実施概要である。

■現地調査・ヒアリング

・市役所担当者へのヒアリング

日時 2021年7月9日（金）10:00－11:30

場所 北秋田市役所

対象 生活課3名、総合政策課1名

・対象地区住民代表へのヒアリングおよび現地調査

日時 2021年7月9日（金）13:30－17:00

場所 大阿仁公民館および大阿仁地区各所

対象 自治会長2名、大阿仁公民館職員1名

■ワークショップ（1回目）

日時 2021年10月30日（土）18:30－20:30

場所 比立内児童館

参加 20名

■ワークショップ（2回目）

日時 2021年11月27日（土）18:30－20:30

場所 阿仁農村環境改善センター

参加 14名

■北秋田市報告会

日時 2022年3月6日（日）14:00－16:00

場所 北秋田市民ふれあいプラザ コムコム

参加 37名

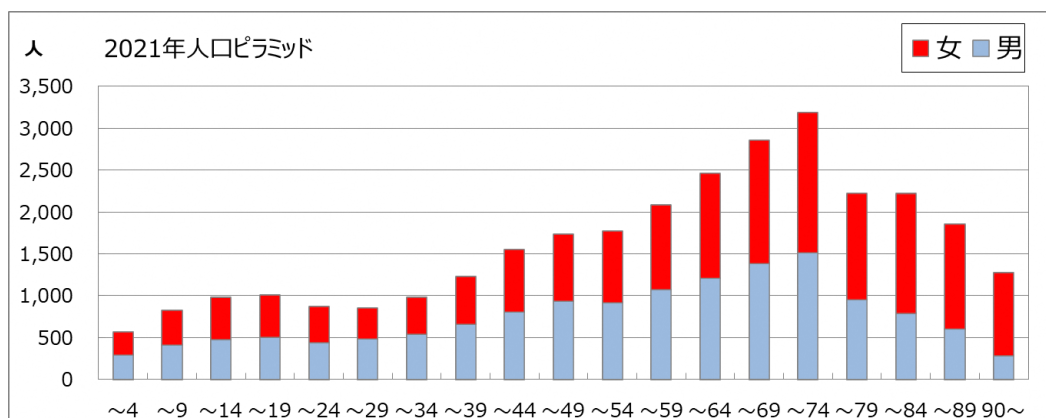
② 人口分析・推計（北秋田市全体）

委託機関が構築した人口推計シミュレーションプログラムを用いて北秋田市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションを行った。

1) 現状分析（2016～2021 年）

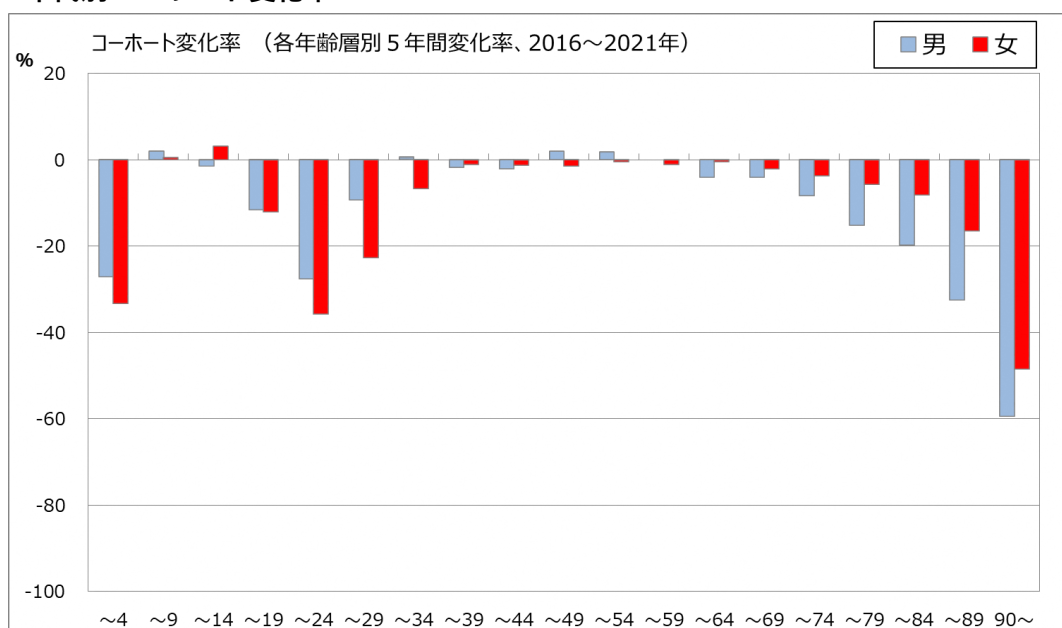
北秋田市全体の人口構成、過去 5 年間（2016～2021 年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



人口 30,504 人の内、70 代前半が最多の 3,185 人、次いで 60 代後半が 2,850 人となっている。最も少ないのは 0～4 歳の 568 人、その次が 5～9 歳の 823 人である。30 代後半より若い年代層は 10 代後半の 1,007 人を除いた全ての年代層で 1,000 人に満たない人数となっている。また、10 代後半～50 代後半まで女性比率が低くなっており 20 代～30 代にかけては特に低くなっている。

ii. 年代別コーホート変化率



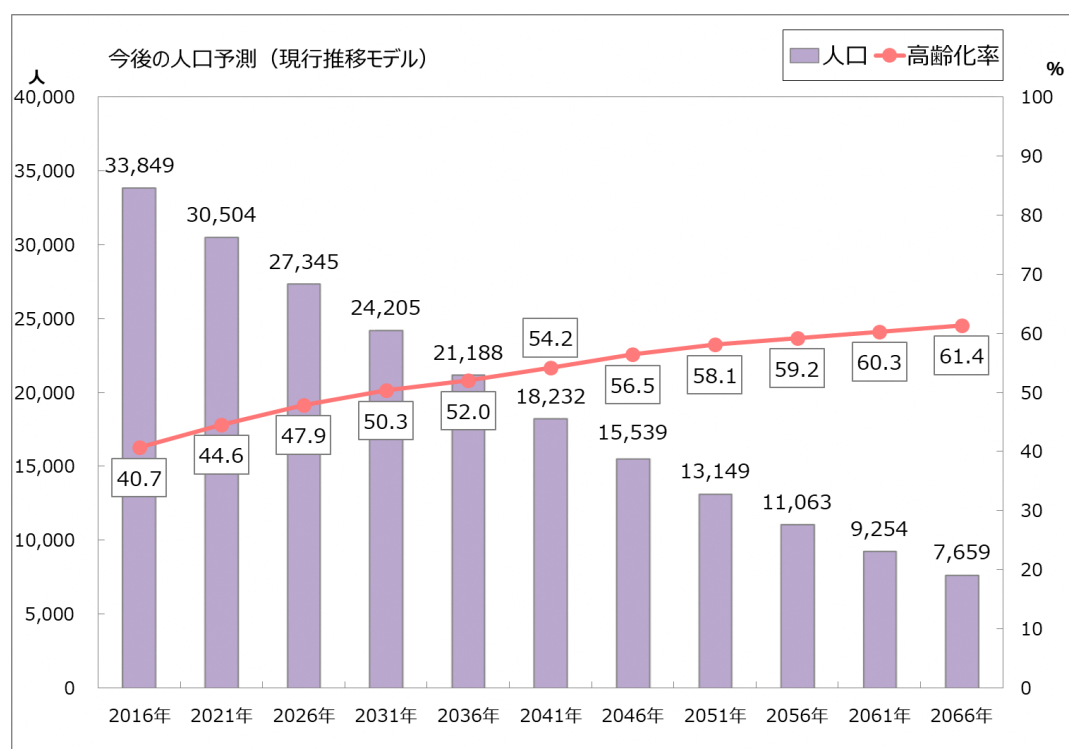
これは 2016 年から 2021 年の 5 年間の各年代における人口増減を変化率で示したものである。例えばこの図で示される「～19」は「15～19 歳」の 10 代後半のことで、数値はこの年代の 2016 年時点の「10～14 歳」の人口と比較してどの程度の増減（主に社会増減）をしているかを表している（0～4 歳のみ 5 年前の比較が出来ないので各時点での人数を比較）。また、高齢年代の減少の多くは自然減である。

北秋田市では 5～9 歳男女、10 代前半女性、30 代前半男性、40 代後半男性、50 代前半男性で若干の増加が見られる。しかし、それ以外の年代層では減少しており、特に 20 代前半と 0～4 歳の年代で大幅な減少となっている。出生率の影響を受ける 0～4 歳の年代に関しては、20 代前半～30 代前半の女性の減少率が同年代の男性を大きく上回っていることと関連があるものと思われる。若い年代で人口が大幅に減少し、その後の年代でも流出した人口を大きく取り戻す動きが見られない状況である。

2) 現状推移シナリオ

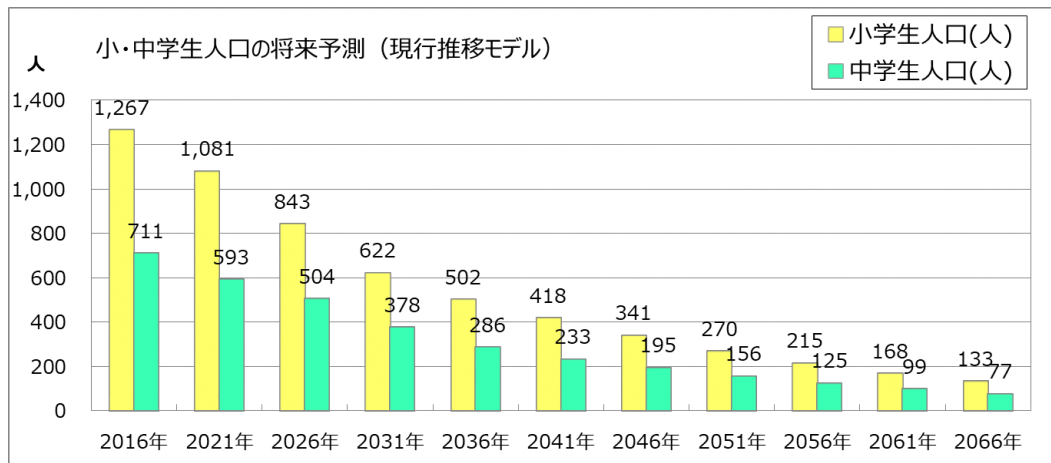
過去 5 年間（2016～2021 年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討する。

i. 人口と高齢化率予測



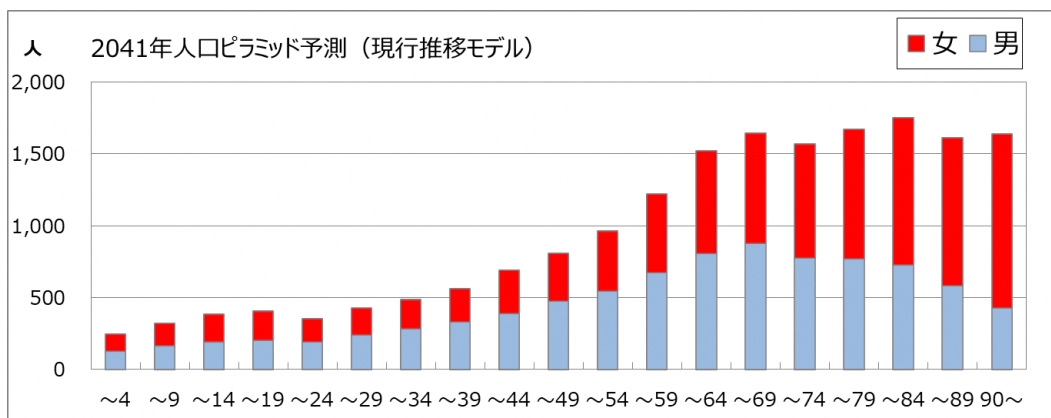
直近 5 年で 33,849 人から 30,504 人へと 3,345 人も減少している。この傾向が続いた場合を想定した予測結果であるため大幅な人口減少を示すこととなった。2021 年比で 20 年後の 2041 年には 59.8%、さらに 45 年後の 2066 年には 25.1%まで減少すると推計されている。高齢化率予測も 20 年後の 2041 年までに 9.6 ポイント上昇し 54.2%に達するという予測結果になった。

ii. 小・中学生数予測



過去5年間の出生数や社会増減を基に予測する限り、小・中学生数も著しい減少となる。2021年比で20年後の2041年には38.9%、45年後の2066年には12.5%となり、人口総数以上の減少率になると推計されている。

iii. 2041年（20年後）の年代別人口構成



60代前半以上の各年代層は1,500人以上の人数を維持しているが、60代前半より若い年代層は一層、少ない人数になると予測される。30代前半以下の年代層は500人を下回るほどである。

3) 人口安定化シナリオ

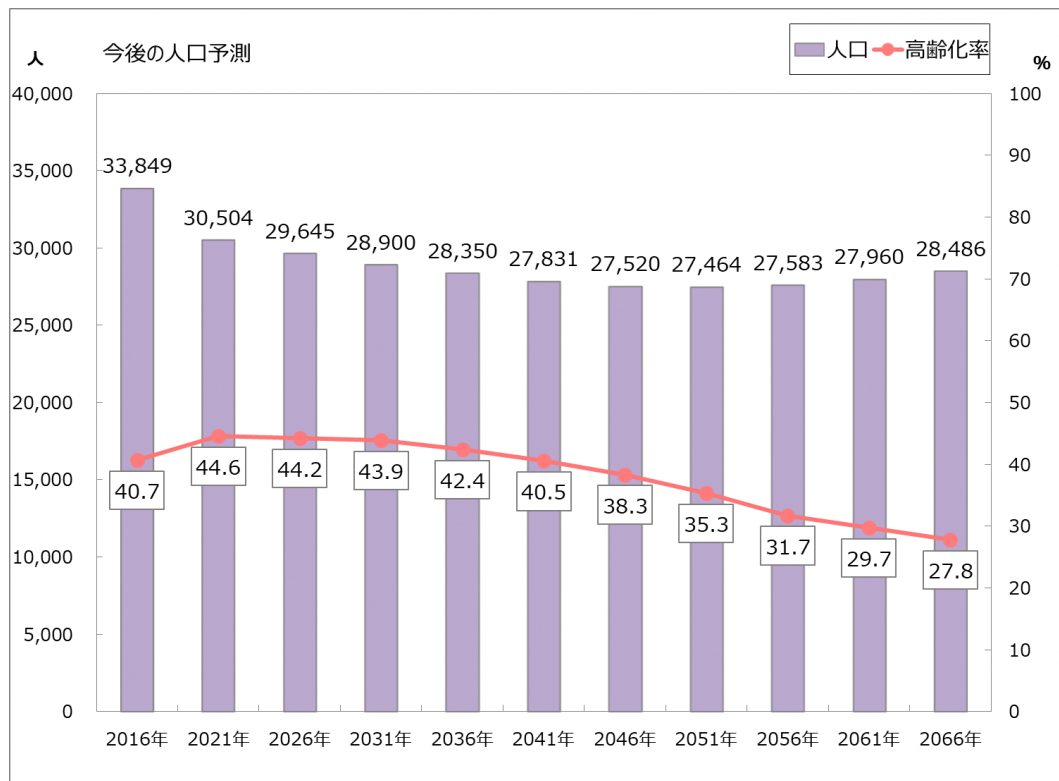
人口安定化シナリオは合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせで検討する。人口の安定化には出生率と10代後半の流出率を改善させ、過去の若年層の人口流出を補うように、20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代のバランスのとれた定住を増加させることが望ましいと思われる。今回の組み合わせでは、出生率は2015年に策定された北秋田市人口ビジョンの推計に準じて2041年には1.94、2046年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各52.0組、364.0人（北秋田市の2021年人口の1.19%）の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（％）		10代後半流出率（％）		定住増加数・率/年	
2021～2026年	1.52	男性	現状	設定値	各世代（世帯）
2026～2031年	1.63		27	14	合計世帯数（世帯）
2031～2036年	1.73	女性	36	18	合計人数（人）
2036～2041年	1.83				2021年人口比（％）
2041～2046年	1.94				
2046年以降	2.07				

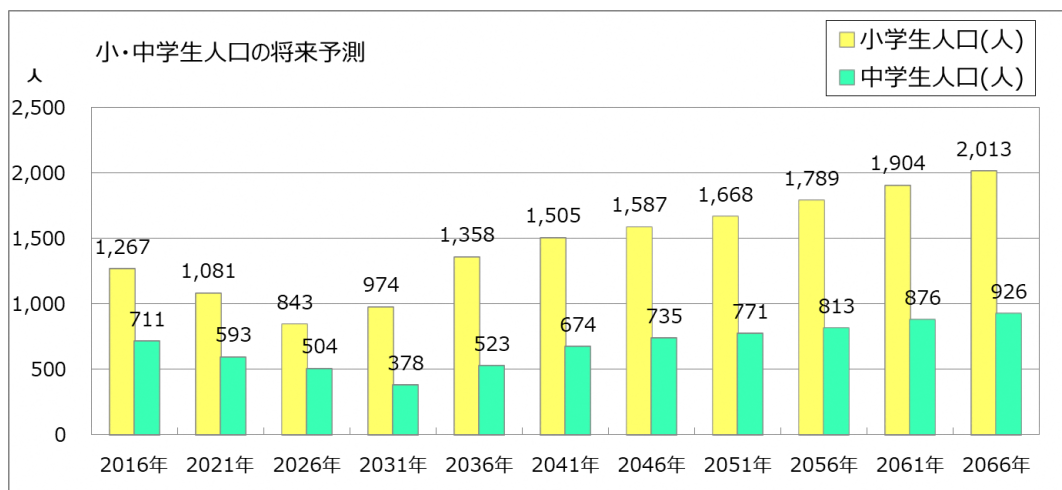
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。

i. 人口と高齢化予測



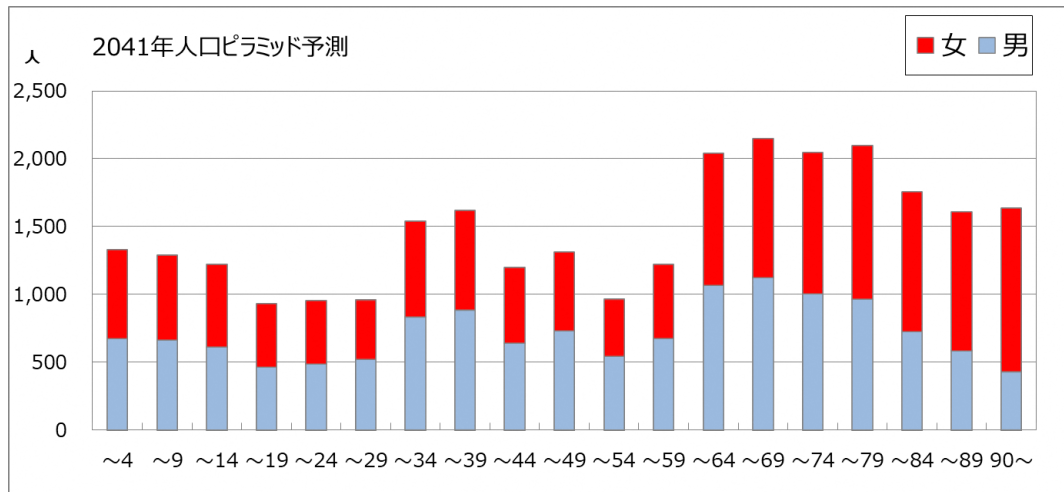
2021年人口の1.19%に相当する人数を毎年、呼び込むことが出来れば、人口総数、高齢化率ともに長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数は、2026年頃には下げ止まり、2031年頃からは徐々に増加していくものと思われる。次頁に示す人口ピラミッドはこの年代層の取り戻しがあって初めて安定的な状態を示すものである。

iii. 2041 年（20 年後）の年代別人口構成



60 代前半と高齢世代である 60 代後半以降の各年代層（地域活動の主力）が 2,000 人を超える人数となり、それより一世代若い 30 代には 1,500 人程度のピークが出来る。また、一桁年代の子ども世代にも厚みが出てくるような構成になると推計されている。

③ 人口分析・推計（北秋田市内全地区）

次に北秋田市内全地区における人口分析・推計結果を掲載する。その内、2016～2021年の地区別コーホート変化率については一覧表で、それ以外の主だった分析・推計については地図上で色分けして表示する。

■2016～2021 年北秋田市地区別コーホート変化率

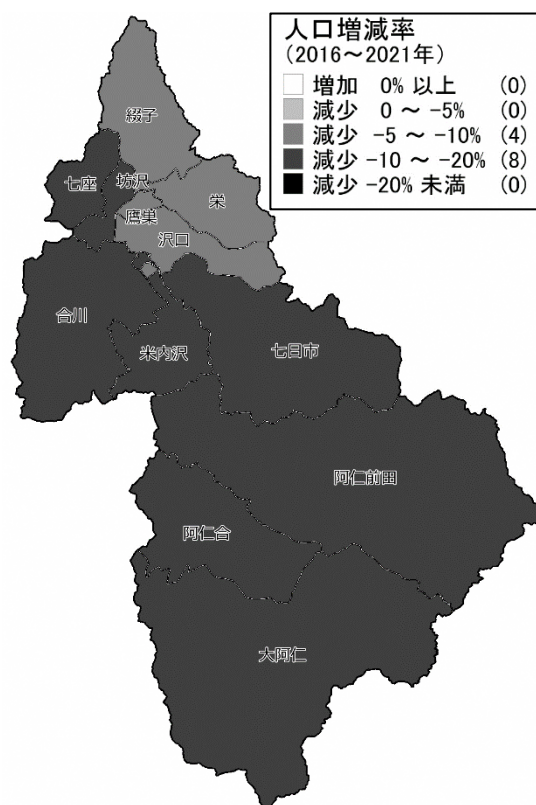
地区名	性別	0～4 歳	5～9 歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳
七座	男	0.33	0.83	1.25	0.80	1.00	1.00	0.92	0.75	1.23	1.07	1.00	1.06	1.00	1.00	0.95	0.74
	女	0.75	0.25	0.86	0.67	0.29	0.70	0.45	0.78	1.33	1.00	1.00	1.00	0.97	1.00	1.03	0.97
坊沢	男	0.58	0.74	0.96	0.76	0.55	0.82	0.79	0.93	1.03	1.00	0.96	0.96	0.98	0.94	0.93	0.79
	女	0.85	1.05	1.00	0.81	0.64	0.81	0.87	0.85	1.11	1.00	1.00	1.03	1.02	1.00	0.90	0.98
綴子	男	0.58	1.08	0.87	0.84	0.85	0.79	0.94	0.99	0.99	1.04	1.03	1.01	0.98	0.97	0.94	0.85
	女	0.80	1.04	0.98	0.86	0.68	0.79	0.90	0.90	1.04	0.90	0.98	0.93	1.01	0.99	0.97	0.96
鷹巣	男	0.93	1.10	0.99	0.88	0.79	1.15	1.01	1.06	0.98	1.04	1.09	0.99	0.93	0.95	0.88	0.83
	女	0.69	0.99	1.04	0.90	0.89	0.97	1.03	1.03	0.99	0.98	0.98	1.00	1.00	0.99	0.93	0.94
栄	男	0.70	1.04	1.09	0.88	0.82	1.03	1.00	1.14	0.89	1.05	0.94	1.02	1.04	1.00	0.94	0.84
	女	0.95	1.10	1.11	1.26	0.74	0.92	1.00	1.00	1.00	1.02	1.13	1.04	1.00	0.99	1.00	0.94
沢口	男	0.84	0.97	1.02	0.98	0.68	0.77	1.12	0.95	0.99	1.02	1.02	1.07	1.00	0.98	0.95	0.86
	女	0.78	1.03	0.98	0.94	0.55	0.70	1.11	1.05	1.03	1.07	1.05	0.98	1.04	1.00	0.99	0.97
七日市	男	0.58	1.33	1.09	1.05	0.53	0.71	1.03	0.90	0.93	1.00	1.13	0.94	0.96	0.91	0.92	0.95
	女	0.27	1.18	1.30	0.79	0.52	0.62	0.65	1.00	0.78	1.05	1.00	0.85	0.93	0.97	0.95	0.95
合川	男	0.78	0.94	1.00	0.89	0.63	0.84	0.97	0.92	0.97	0.99	0.95	1.01	0.94	0.95	0.92	0.87
	女	0.44	1.00	1.06	0.88	0.63	0.76	0.90	1.00	1.01	0.99	0.99	1.01	0.99	0.94	0.98	0.92
米内沢	男	0.76	1.00	1.09	0.84	0.64	0.93	0.98	0.96	0.98	1.01	0.98	0.98	0.94	0.98	0.89	0.85
	女	0.58	1.00	1.00	0.86	0.53	0.73	0.93	0.97	0.97	0.98	0.97	1.02	0.95	0.96	0.95	0.94
阿仁前田	男	0.63	1.00	0.77	0.90	0.71	0.94	1.24	1.00	1.00	0.97	1.08	1.02	0.91	0.97	0.93	0.83
	女	0.86	1.00	0.95	0.70	0.62	0.60	0.80	0.97	0.86	1.00	0.98	1.00	1.02	1.02	0.97	0.95
阿仁合	男	0.35	1.06	1.00	0.93	0.92	0.73	1.50	0.97	0.96	1.00	0.97	0.98	1.03	0.98	0.89	0.80
	女	1.29	0.86	1.29	0.71	0.52	0.36	0.88	1.21	0.85	1.06	0.97	0.96	1.10	0.99	0.94	0.91
大阿仁	男	0.09	0.91	0.94	0.64	0.85	0.88	1.00	0.92	1.00	1.06	1.04	0.97	1.00	0.89	0.92	0.97
	女	0.25	0.75	0.88	1.00	0.20	0.56	1.00	0.86	0.92	0.93	1.00	1.00	0.92	1.03	1.00	0.94

注：コーホート変化率の計算方法は参考資料に掲載のとおり。

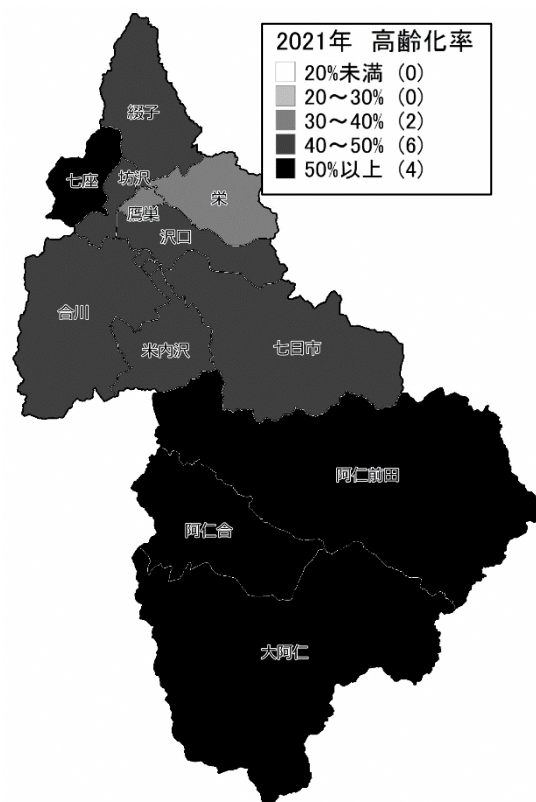
上表は2016～2021年北秋田市地区別コーホート変化率を示している。変化率が増加（1.00より大きい）、変化なし（1.00）、減少（0.50以上1.00未満）、大きく減少（0.50未満）の4段階で色分けして表示した。人口動態は地区別に異なっており、市内一律に同じ対策を講じていても効果が一定ではないことを示唆している。それぞれの地区に適した独自の対策を設計し実行する必要性が伺える。

次に人口増減率（2016～2021年）、高齢化率（2021年）、社会増減率（2016～2021年）、4歳以下増減率（2016～2021年）、小学生増減率（2016～2021年）、30代女性コーホート増減率（2016～2021年）、人口増減率予測（2021～2051年）、2051年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2021年人口比%）についての分析結果を図示する。この分析・推計結果を市内全地区が表示された地図上に表現し、結果の評価については良い場合は淡色、思わしくない場合は濃色（白色～黒色）になるように段階的に表示している。

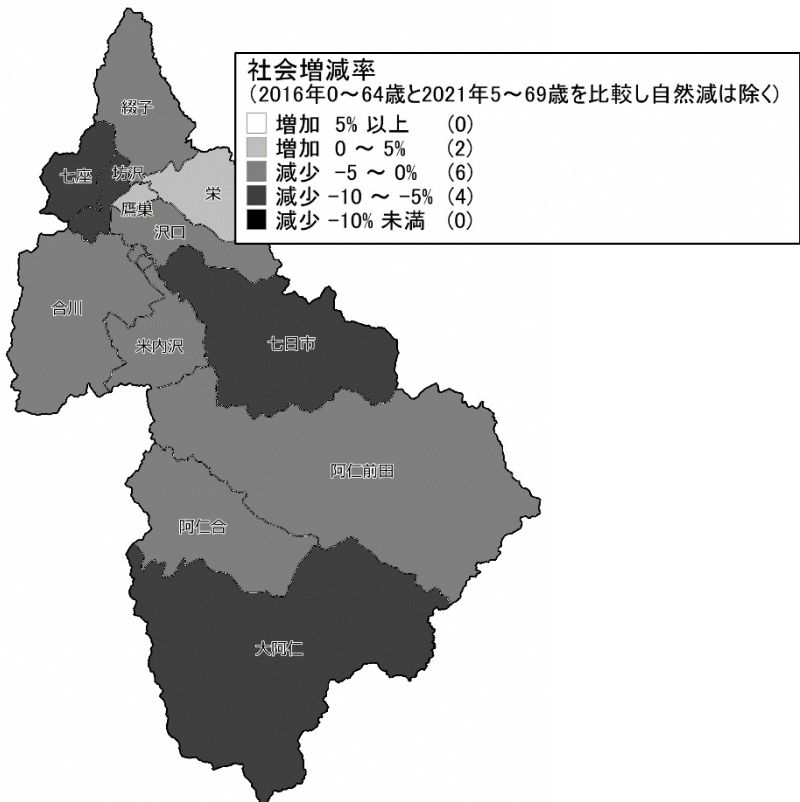
■人口増減率（2016～2021年）



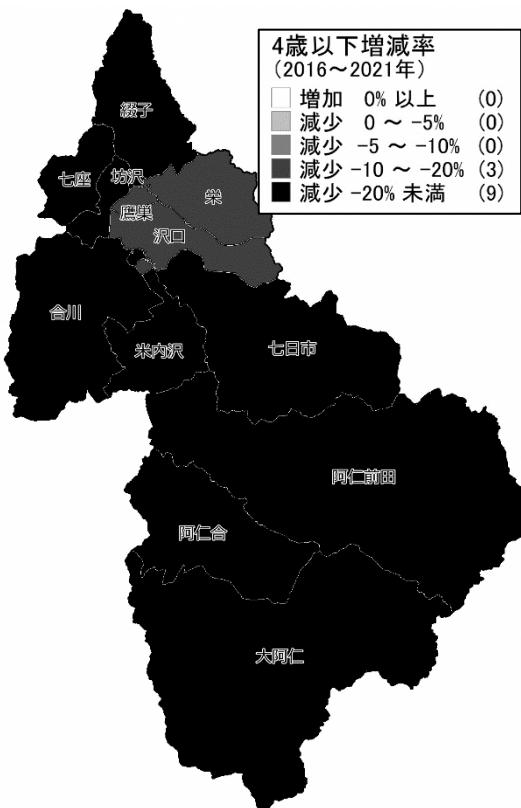
■高齢化率（2021年）



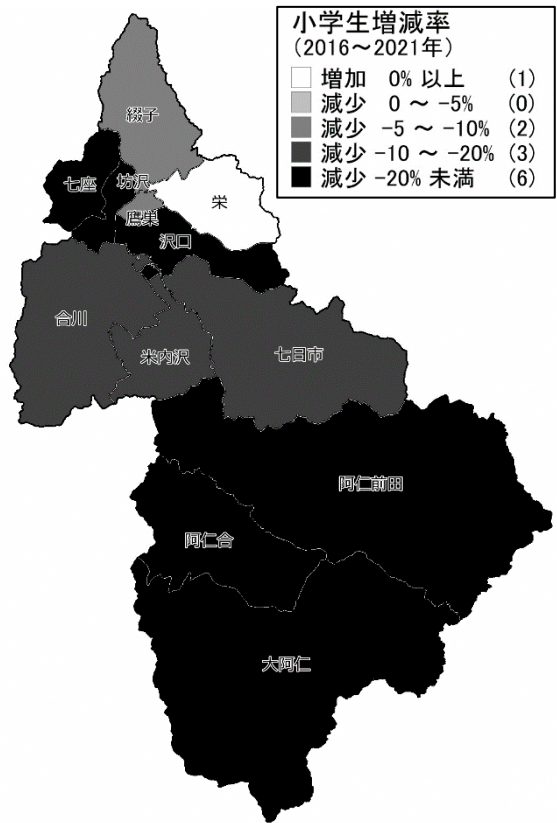
■社会増減率（2016～2021年）



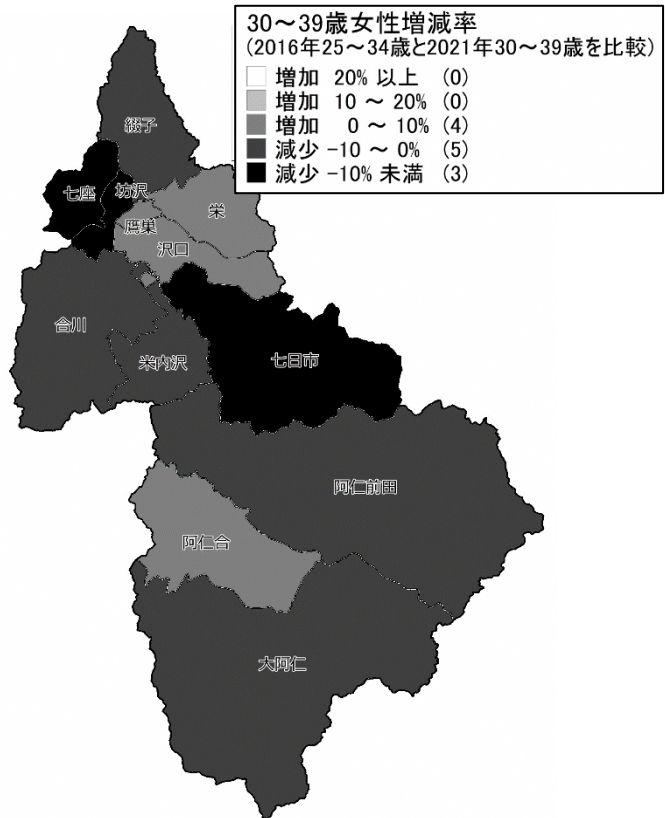
■ 4 歳以下増減率（2016～2021 年）



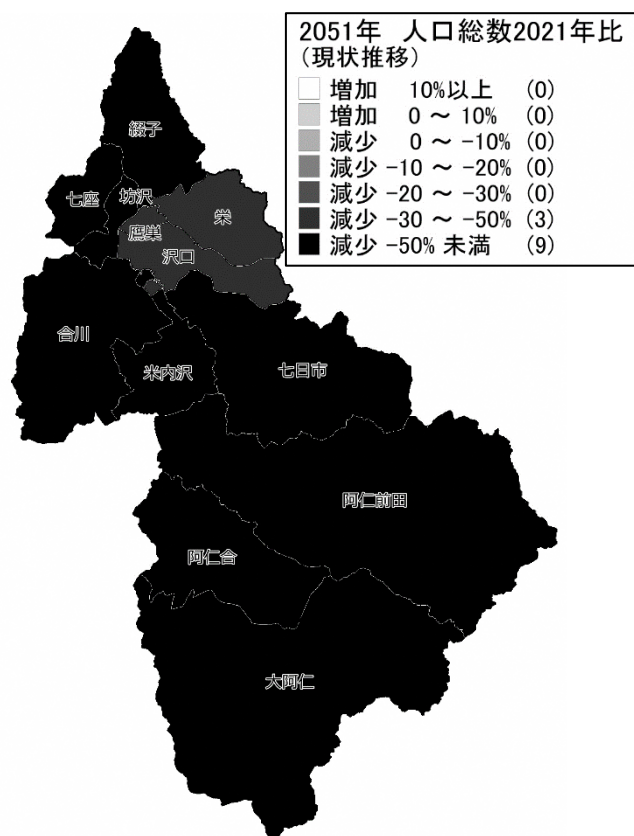
■小学生増減率（2016～2021 年）



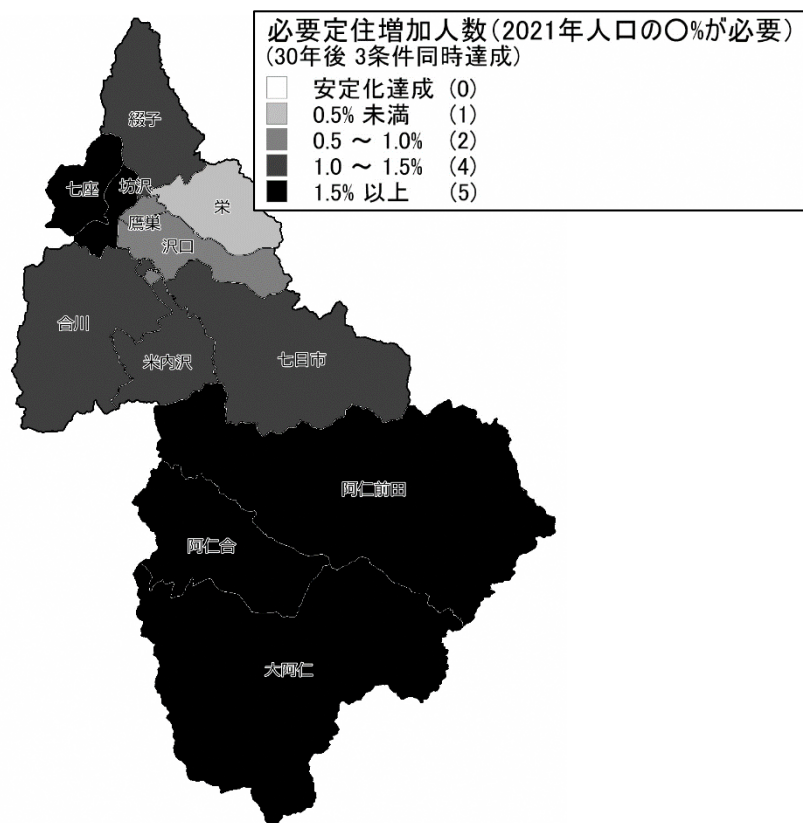
■30 代女性コーホート増減率（2016～2021 年）



■人口増減率予測（2021～2051 年）



■2051 年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2021 年人口比％）



④ モデル地区（北秋田市大阿仁地区）の概要

北秋田市は 2005 年 3 月に当時の鷹巣町、合川町、森吉町、阿仁町の合併により誕生した自治体で、12 の地区から構成されている。その中の旧阿仁町大阿仁地区をモデル地区として本事業を実施した。大阿仁地区は 9 つの集落から構成されている。人口 793 人、406 世帯、高齢化率 58.9%（2021 年 12 月当時）の北秋田市の最南部に位置する山間の地区である。大阿仁地区全体をまとめ上げる連合自治会のような組織・団体は存在していない。大阿仁地区は大阿仁小学校区でもあるが、2023 年度からは大阿仁小学校と阿仁合小学校、阿仁中学校の統廃合により義務教育学校阿仁学園が新設されるため、大阿仁地区は新設学校区の一部という扱いになる。校舎改修等の影響で 2023 年度中は大阿仁小学校に児童が通う姿を見ることは出来るが、翌年度以降の大阿仁小学校舎は廃校舎になることが決まっている。大阿仁フェスタや大阿仁スノーフェスタ等は学校行事でありながら教職員や PTA だけではなく地区全体が協力し行われてきた行事である。大阿仁小学校の閉校は地区住民にとっては地区の明りが消えてしまうという心配の種になっている。

大阿仁地区は古くから農林業と共にあった地区で戸島内大野集落の棚田は食料生産のみならず、すばらしい景観を維持しており、狩猟を生業として山から恵みを得るマタギは文化・伝統的観点からも大変価値のある存在である。また、北秋田市を縦断するように秋田内陸縦貫鉄道が仙北市の角館駅まで運行しており、大阿仁地区には岩野目駅、比立内駅、奥阿仁駅、阿仁マタギ駅の 4 つの駅が存在する。この内の比立内駅では事務所を改装しコワーキングスペース「阿仁比立内がっこステーション」として 2022 年 1 月に開所し、様々な用途に活用を検討している。

その他、地区内の団体や組織に関してはヒアリング調査から作成した次頁の地元関係図にまとめたので参照いただきたい。



戸島内大野集落の棚田



小学校と地域が一体で取組む大阿仁スノーフェスタ



阿仁比立内がっこステーションで開催されたがっこ市

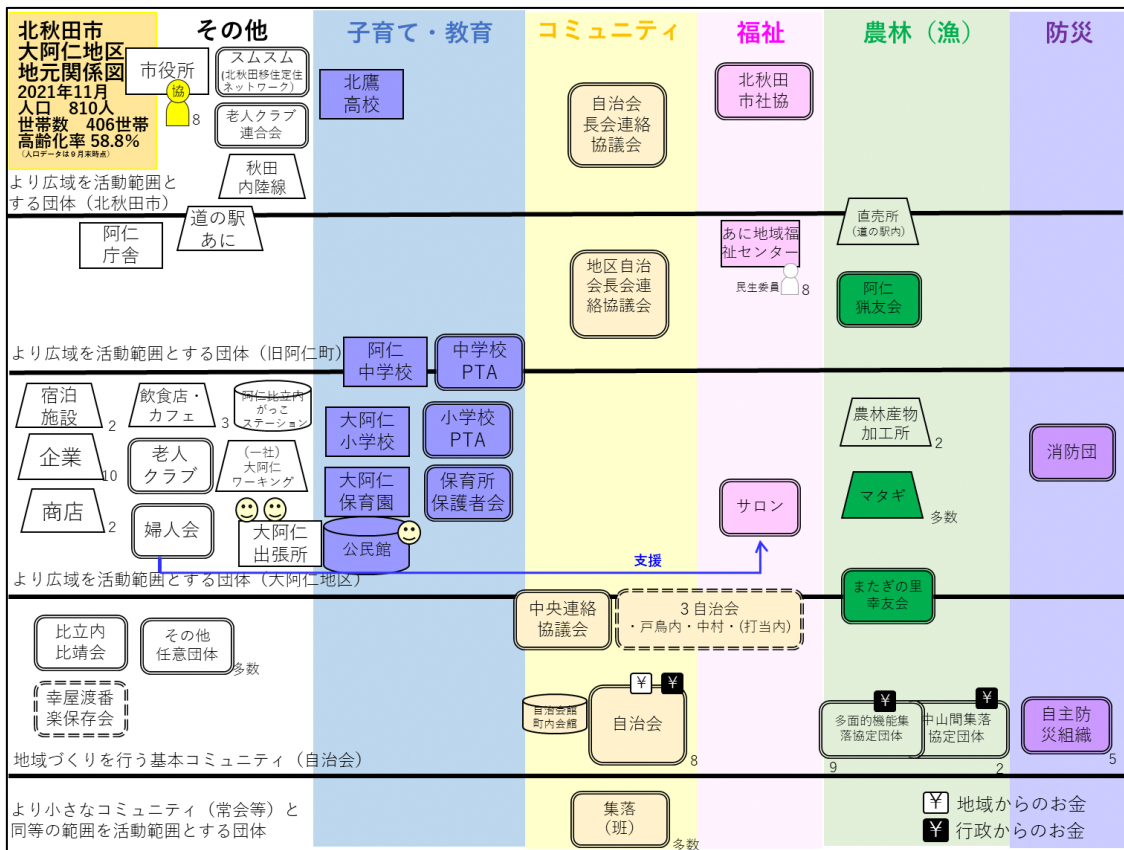


図 大阿仁地区の地元関係図

注：□の¥は地域住民から集めたお金、■の¥は行政からの交付金・補助金を表現。

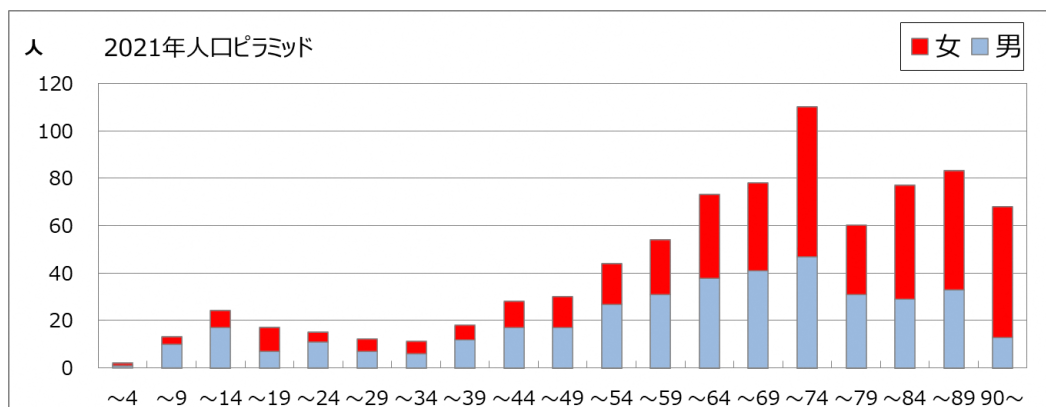
⑤ 人口分析・推計（北秋田市大阿仁地区）

北秋田市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションと同様の分析と検討を大阿仁地区においても行った。

1）現状分析（2016～2021 年）

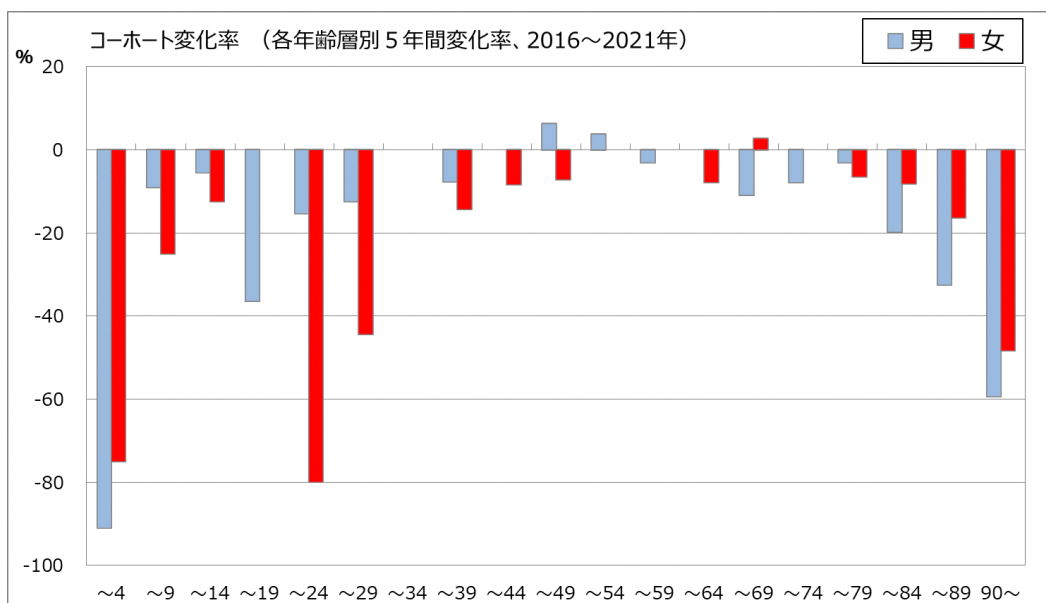
大阿仁地区における人口構成と過去 5 年間（2016～2021 年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



地区住民 817 人の内、最多は 70 代前半の 110 人、次いで 80 代後半の 83 人となっている。最少は 0～4 歳の 2 人、次に少ないのが 30 代前半の 11 人である。0～4 歳代の人数は出生数による影響が大きく、その数が少ない理由としては、その親世代として想定される 20 代～40 代の各年代層の人数そのものが少なく、さらに女性比率が極端に少ない年代層が多いということが挙げられる。

ii. 年代別コーホート変化率

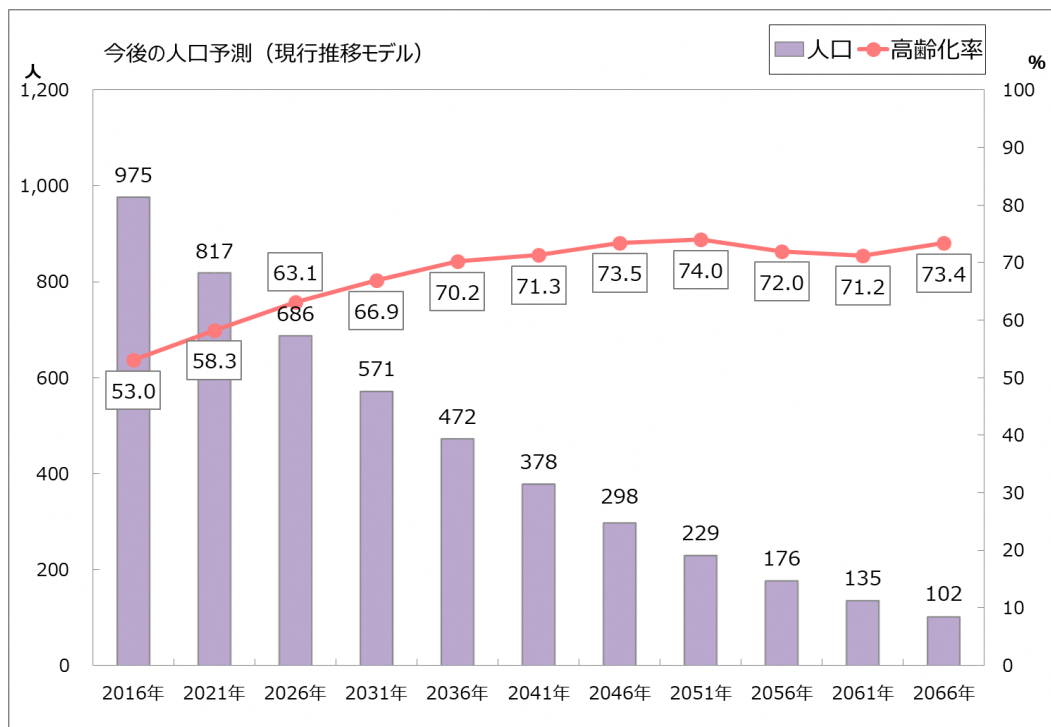


40代後半男性、50代前半男性、60代後半女性が実数にして1人ずつ増加している。それ以外の年代層は増減していないか、減少しているということになり、0～4歳男女と20代前半女性は特に減少の割合が大きい。これほどの極端な減少率を示した場合、分析の対象期間である2016年から2021年にかけて減少を誘発する一時的な要因があった可能性も示唆される。そうした可能性を考慮したとしても30代未満のその他の年代層でも顕著に減少しており、その後の30代以上の年代層でも取り戻すどころか、さらに減少している年代層が多いという状態となっている。

2) 現状推移シナリオ

大阿仁地区における過去5年間（2016～2021年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討していく。

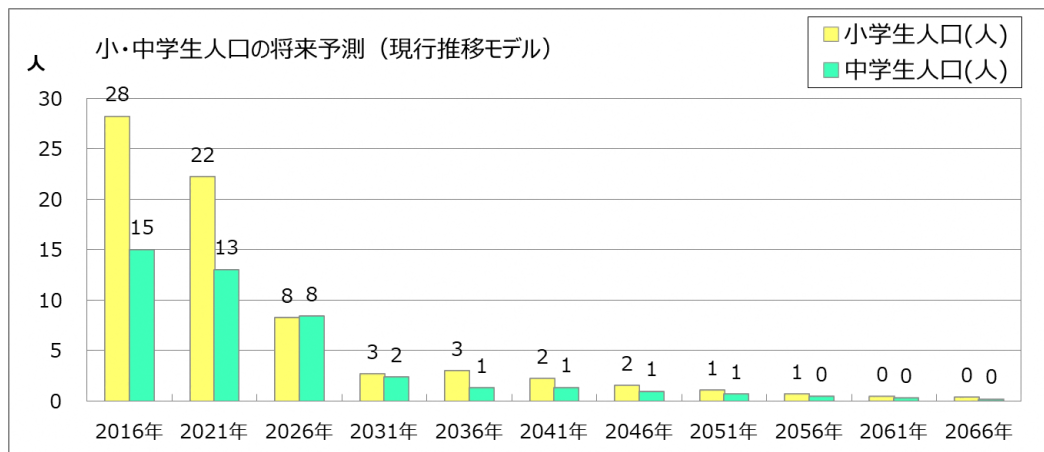
i. 人口と高齢化率予測



注：本項以降に掲載する各種人口推計は0～4歳男女、20～24歳女性の急激な減少が恒常的な減少ではなく一時的な要因による減少の可能性が排除出来ないため、より現実的な推計となるように補正を加えて（減少が緩やかになるように）分析した結果を掲載する。また、ワークショップにおける定住増加シナリオの検討でも同様の補正を加えた人口推計シミュレーションプログラムを使用したもので、その結果を掲載する。補正の算出方法については参考資料に掲載のとおり。

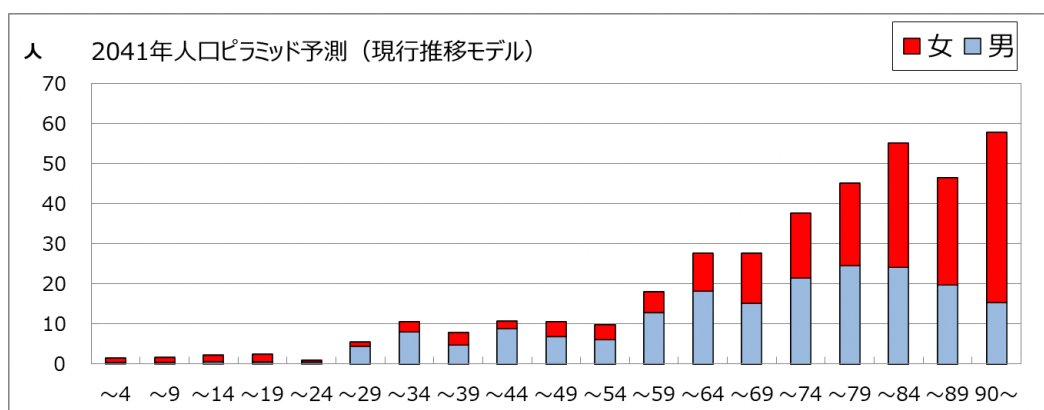
北秋田市全体と比較しても人口減少と高齢化は急速に進むものと見込まれる。人口は2021年比で20年後の2041年には半減以上の46.3%、45年後の2066年には12.5%まで減少し、高齢化率は2021年の58.3から20年後の2041年には13ポイント上昇し71.3%に達すると推計されている。

ii. 小・中学生数予測



すでに示した年代別人口構成や年代別コーホート変化率からも推測出来るように、小・中学生数も著しい減少となる。2021年比で20年後の2041年には8.6%（3人）、40年後の2061年からは0人と推計されている。

iii. 2041年（20年後）の年代別人口構成



90代以上が最も多い年代になると推計された。50代後半より若い年代に全く厚みのない人口構成で将来的なコミュニティの運営や活動の維持には相当な困難が伴うものになると予測される。

3) 人口安定化シナリオ

北秋田市全体での検討と同様に大阿仁地区においても人口安定化シナリオを検討する。この検討には合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせる。

今回の組み合わせでは、出生率は2015年に策定された北秋田市人口ビジョンの推計に準じて2041年には1.94、2046年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかし、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20

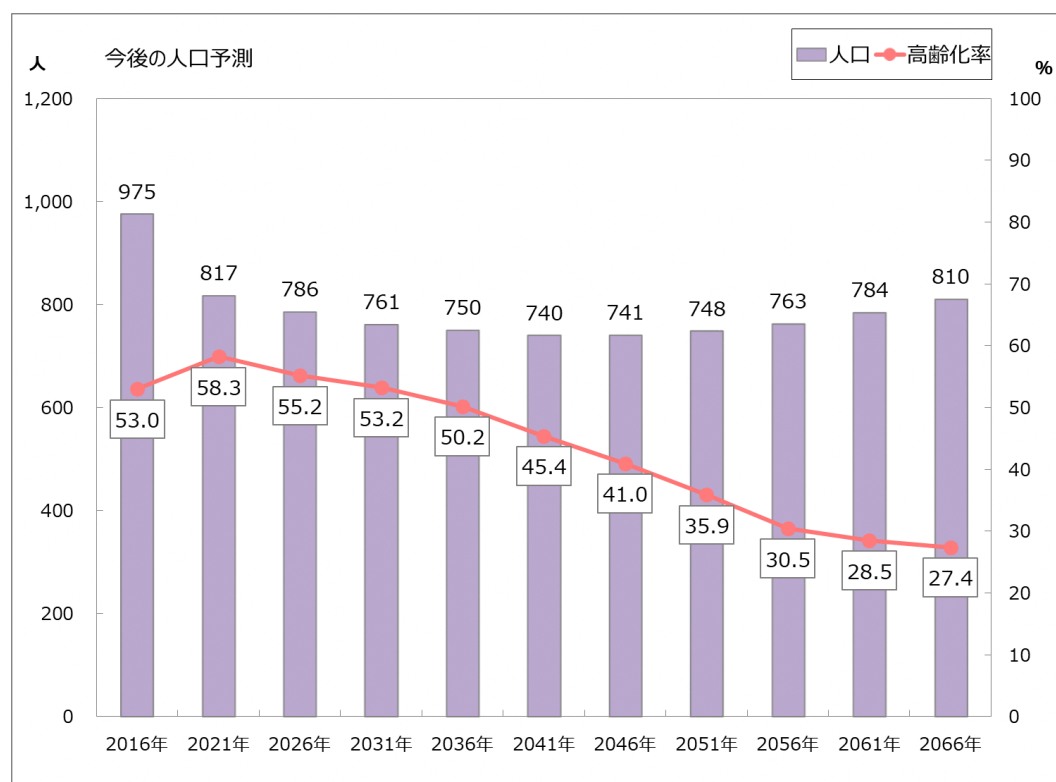
代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各2.4組、7.2人（大阿仁地区の2021年人口の2.06%）の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（％）		10代後半流出率（％）		定住増加数・率/年		
2021～2026年	1.52		現状	設定値	各世代（世帯）	2.4
2026～2031年	1.63	男性	15	8	合計世帯数（世帯）	7.2
2031～2036年	1.73	女性	36	18	合計人数（人）	16.8
2036～2041年	1.83				2020年人口比（％）	2.06
2041～2046年	1.94					
2046年以降	2.07					

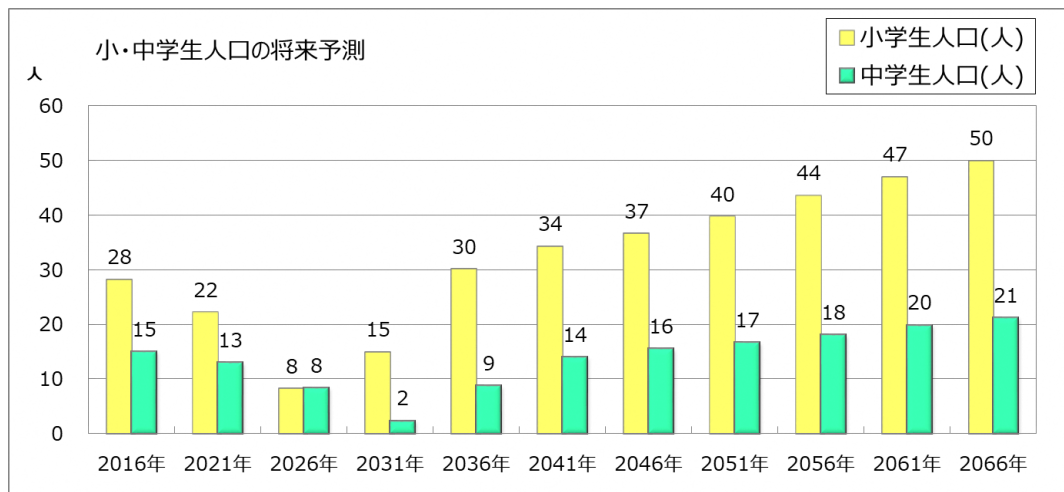
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。

i. 人口と高齢化予測



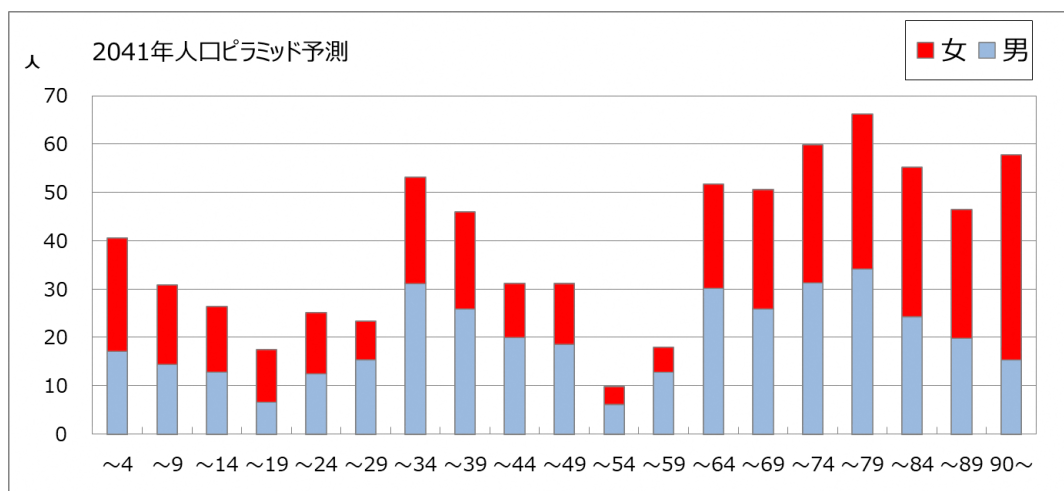
2021年人口の2.06%に相当する人数を毎年、呼び込むことが出来れば、人口総数、高齢化率とも、長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



若い年代の継続的な定住が達成されれば小学生数は 2031 年頃から、中学生数は 2036 年頃からそれぞれ増加傾向になる。総数で見た場合は 2036 年には、現在の人数を上回る程に回復すると推計される。

iii. 2041 年（20 年後）の年代別人口構成



誘致目標とした年代の影響をそれほど受けない年代層には変化は表れていないが地域活動の主役年代でもある 60 代前半とそれ以降の高齢者を含む年代層に大きなピークがある。30 代では大きく人口の取り戻しがあり、その子ども年代にもピークが存在するような人口構成になると推計される。

⑥ ワークショップ（1回目）（人口安定化ワークショップ）

1) 目的

本業務の目的でもある具体的な定住促進策の検討には住民の参加が求められる。当ワークショップでは、住民の方々に地域の人口動態を再確認いただき、移住者がどのくらい増えれば地域の人口はどのように変化するのか具体的にシミュレーションいただいた。その上で目標とすべき移住者誘致数や地域人口の安定化を検討することを目的として行った。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2021年10月30日（土）18：30－20：30
- ・場所 比立内児童館
- ・参加者 地域住民（20名）、北秋田市職員、秋田県職員等A～Dの4班

■実施・作業内容

- ・一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の藤山氏による当日の作業内容等の概要説明
- ・人口動態の増減要因分析として自らの地区の2016年から2021年の各年代、男女別の人口動態（コーホート変化率）を確認し、その増減要因を分析
- ・人口推計シミュレーションプログラムを実際に体験し、人口安定化に向けた具体的な移住者数（人口安定化シナリオ）の検討

■当日の様子



3) 人口動態の増減要因分析

この作業では参加者に対して大阿仁地区の年代別コーホート変化率のグラフを提示しながら、各年代の増減要因を検討いただいた。各班の検討結果の要約・抜粋が次頁表である。

表 大阿仁地区における人口増減要因分析結果の要約・抜粋

年齢	人口増加要因	人口減少要因
0～4		子どもの教育 産む年代がいない
5～9		鷹巣へ引っ越し
10～14		鷹巣へ引っ越し
15～19		女性にとって魅力的な職場がない 市外の高校や大学へ 市外へ就職 幅広いスキルを身に付ける手段がない
20～24		女性の県外への進学率が高い →その後、結婚し戻って来ない 仕事、職場がない 職種や採用人数が少ない
25～29	地域おこし協力隊のYさんが来た	結婚 仕事、職場がない 職種や採用人数が少ない
30～34	くろもじ茶の製造販売を自営で行うためMさんが来た	仕事で鷹巣へ引っ越し
35～39		子どもの進学
40～44		
45～49	実家を守るためUターン 親の介護	
50～54	親の介護	
55～59		
60～64		子どもの居住地へ転出
65～		子どもの居住地へ転出
その他	医療系の職業が人気 マタギ志望の20代男性を呼び込んだ後に結婚してもらってはどうか	女性の就職先がないため子どもを産む世代がいない 冬場が大変で入って来ない

20代までの女性の流出が多い結果を見ながらの作業のため、その年代への減少要因が多く書き出された。要約すると進学時に市外へ出て、身に付けた能力があったとしても、それを地元で活かせる職種もなく、結果的に市外や県外に就職後、そのまま当地で結婚し戻って来ないという分析であった。また、例え地元で就職し結婚したとしても子育て世代は生活に便利な鷹巣方面に転出してしまうという分析もなされた。増加要因では実際に移住された方を記載する以外はなかなか分析が進まないようであった。大阿仁地区に人を引き付ける要素が少ないという考えが多く見られた中で、特に男性に多かったのがマタギに人を誘引する魅力があるとの意見であった。人口の増減要因を分析する作業ではあったが、マタギの活用について考え、人を呼び込むための検討を始めた班もあるほど、真剣な話し合いが行われた。

4) 人口安定化のシナリオづくり

次に人口推計シミュレーションプログラムを使用し 20 代前半夫婦、30 代前半子連れ夫婦、60 代前半夫婦の 3 世代の目標誘致数を検討いただいた。その際、実際に達成したい現実版の目標と、可能ならばこれくらい来て欲しいという理想版の目標を立てていただいた（下表参照）。なお 10 代後半流出率抑制目標については現在の男性 15%、女性 36%をそれぞれ 8 % と 18%になるように設定した。合計特殊出生率については現在の 0.82 から 2046 年までに段階的に 1.80 へ上昇するよう設定した。人口安定化をより身近に感じていただくために、「⑤—3）人口安定化シナリオ」で設定した数値と比べて合計特殊出生率はより緩やかな数値目標となるようにした。加えて大阿仁地区では若年女性の減少が著しいため、人口推計シミュレーションをより円滑に行うため前提条件（絶対に取り戻さなければいけない要素）として 20 代後半単身女性を 2 年に 1 人（0.5 人/年）、確実に取り戻すという数値入力を行った。

表 大阿仁地区における検討された人口安定化シナリオ

前提条件：20代後半単身女性が0.5人/年増加						
項目	班	A	B	C	D	単位
誘致世帯数・人数/年 目標						
20代前半夫婦	現実版	0	1	0.5	0.2	組
	理想版	3	2	2.5	1	
30代前半子連れ夫婦	現実版	1	0	0	0.2	
	理想版	3	2	3	1	
60代前半夫婦	現実版	0	1	1	0	
	理想版	1	2	1	0	
合計人数	現実版	3.5	4.5	3.5	1.5	人
	理想版	17.5	14.5	16.5	5.5	

各班でシミュレーションした結果、様々な組み合わせが検討された。前半の作業で若い年代の減少要因について真剣に検討したため、20 代前半夫婦や 30 代前半子連れ夫婦の誘致には 0 組や 0.2 組というような消極的な目標が散見された。しかし、理想版では「本当はこうなって欲しい」という願いも込められた年間 15 人前後の誘致目標となった班が 3 班認められた。これは前掲した人口安定化シナリオに近い数値設定であった。

その中で理想版でも比較的厳しめ（現実路線）の数値目標を検討した D 班の結果を次頁に示した。20 代前半夫婦と 30 代前半子連れ夫婦を 1 組ずつ毎年誘致すると高齢化率はおよそ 15 年後には下降線を示すが、人口減少はなかなか止めることが出来ず、漸く 30 年後の 2061 年頃から 2021 年人口の 46%程度で安定化が見えてくると推計された。小・中学生数は 2036 年頃から増加傾向が維持されると推計された。

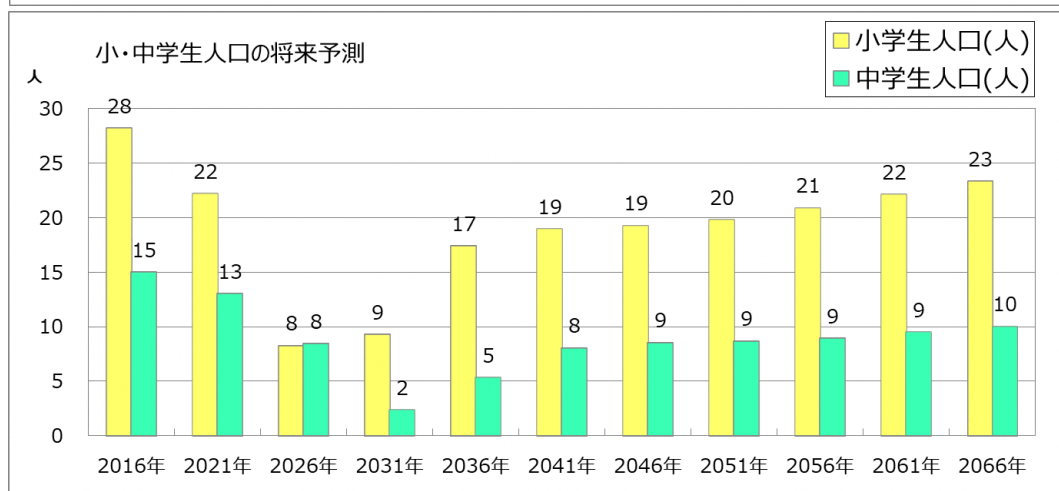
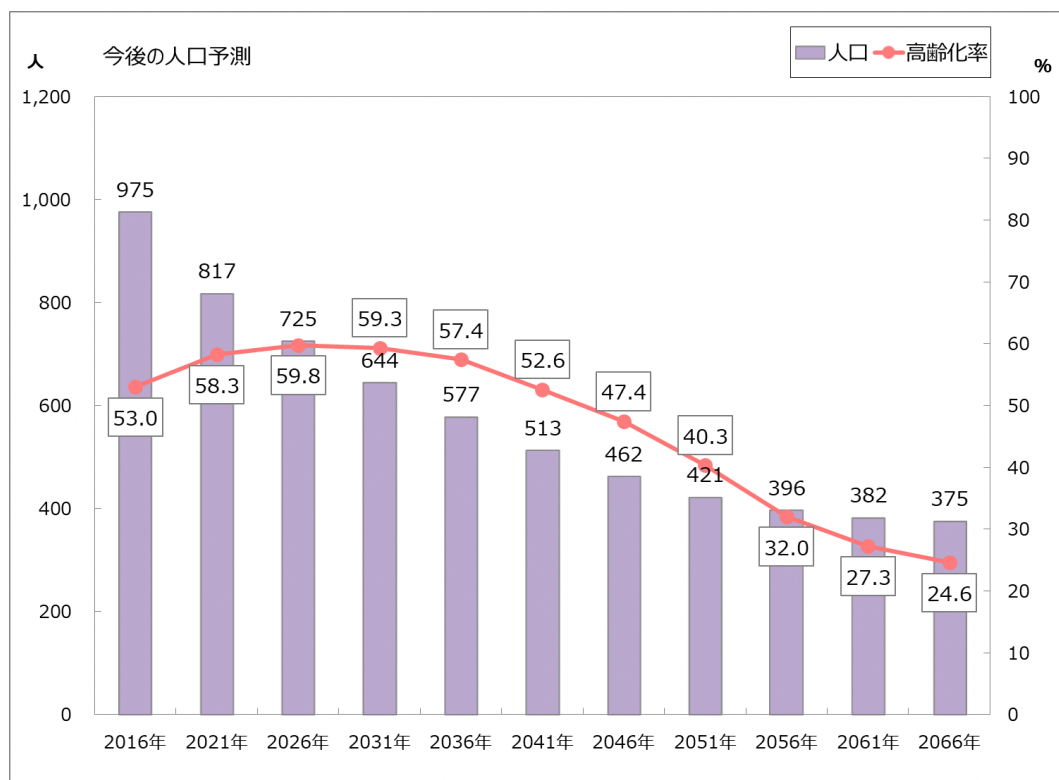


図 大阿仁地区 D 班理想版の検討結果 人口と高齢化予測（上）と小・中学生数予測（下）

5) まとめ

前半の作業では顕著に若年層が流出しているグラフを見ながら人口増減要因を検討したため、意見の多くが減少要因に関するものとなった。しかし、地域おこし協力隊やクロモジの商品開発や販売を目指す移住者をしっかりと住民が意識していることも分かった。

大阿仁地区の人口減少がこのまま進むことで、地域の人口がどうになってしまうのか視覚的に理解した後の人口安定化シミュレーション作業では数値を入れ替える都度、結果も変わるので様々な数値を試していただくことが出来た。その結果、参加者が現実的と考える目標では容易に人口減少は止まらないということを実感いただけたのではないかな。こうした意識を共有出来たことも成果と考えることが出来る。

⑦ ワークショップ（2回目）（地元天気図ワークショップ）

1) 目的

ワークショップ（1回目）を受けて、このワークショップでは地元関係図を基に地域の現状と定住促進を可能とする将来像について検討を行った。地域の行動計画（グランドデザイン）策定の一助、あるいは地域の拠点づくりや実際に移住者を呼び込むという動きを生み出す端緒となることを念頭に置いている。実施地域における今後の検討材料として活用いただきたい。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2021年11月27日（水）18：30－20：30
- ・場所 阿仁農村環境改善センター
- ・参加者 地域住民（14名）、北秋田市職員、秋田県職員等A～Cの3班

■実施・作業内容

- ・一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の藤山氏による当日の作業内容等の概要説明
- ・地元天気図ワークショップとして前半（課題編）と後半（解決編）の地元天気図の作成と地域の定住促進策の検討（テーマは30代女性が定住するとしたら）
前半は地域の現状や課題を確認するため、施設、組織等について強みや弱み、関係性を検討し現時点での地元天気図を作成
後半は前半で確認した地元天気図にどのような要素が加われば、30代女性が移住・定住しやすくなるのかを検討し将来展望を加味した地元天気図を作成

■当日の様子



3) 検討結果

大阿仁地区では3班構成で作業が行われた。その中でメンバーが男性のみのA班と女性のみでC班（どちらもベテランと若手混合の班）の検討結果を表示する（「④モデル地区（北秋田市大阿仁地区）の概要」に掲載した地元関係図と併せてご覧いただきたい）。

A班前半

その他

子育て・教育

コミュニティ

福祉

農林（漁）

防災

より広域を活動範囲とする団体（北秋田市）

個人個人では頑張っているが数が少ない

宿泊施設

飲食店・カフェ

企業

商店

伝統芸能の担い手

比立内比喆会

幸屋渡番楽保存会

実際は後継者がいない

市役所

スミスズ（北秋田移住定住ネットワーク）

老人クラブ連合会

秋田内陸線

道の駅あに

阿仁庁舎

将来を担うけど一番不安…

阿仁中学校

中学校PTA

大阿仁小学校

小学校PTA

大阿仁保育園

保育所保護者会

公民館

活動が活発

親睦を深めるために機能主体の活力はない

地区自治会長連絡協議会

活動は停滞気味…

地域の人々が集まって交流

サロン

中央連絡協議会

3自治会・戸島内・中村・（打当内）

自治会

集落（班）

直売所（道の駅内）

あに地域福祉センター

民生委員

阿仁猟友会

農林産物加工所

マタギ

またぎの里幸友会

木彫りのチェーンソーアート等、活動が活発

多面的機能集落協定団体

中山間集落協定団体

自主防災組織

消防団

地域からのお金

行政からのお金

より小さなコミュニティ（常会等）と同等の範囲を活動範囲とする団体



The map illustrates the distribution of community organizations across Akita Prefecture, categorized by vitality level (High/Low) and activity range (Local/Regional/Basic/Small-scale).

- C Class Front Half:** Includes Aomori City, Oshima City, and other municipalities. Organizations like '市役所' (City Office), '老人クラブ連合会' (Elderly Club Federation), and '秋田内陸線' (Akita Inland Line) are shown.
- Other:** Includes '阿仁庁舎' (Arin Hall), '地域の希望' (Regional Hopes), '中学校PTA' (Middle School PTA), '小学校PTA' (Elementary School PTA), '大阿仁小学校' (Da-Arino Elementary School), '大阿仁保育園' (Da-Arino Nursery), '生活に欠かせない' (Essential for Life), '地域の応援団' (Regional Support Team), '比立内比喩会' (Hirashina Heibonkai), '幸屋波楽保存会' (Kosawari Hakka Preservation Association), and '伝統芸能を残していきたい' (Want to preserve traditional performing arts).
- Community:** Includes '自治会' (Neighborhood Association), '地区自治会長連絡協議会' (District Mayor's Association), '高年齢者の交流' (Exchange of High-Aged People), 'サロンの' (Salon), '中央連絡協議会' (Central Liaison Association), and '地域差がある' (There are regional differences).
- Welfare:** Includes '北秋田市社協' (Kita-Akita Municipal Social Welfare Association), 'あに地域福祉センター' (Ani Regional Welfare Center), '民生委員' (Social Worker), '高齢化職員の退職後継者いない' (No successors for retired elderly staff), '直売所(道の駅内)' (Direct Sales Place (Inside Road Station)), '農林産物加工所' (Agricultural Product Processing Plant), 'マタギ' (Matagi), 'またぎの里幸友会' (Matagi no Sato Kōyū Kai), 'チェーンソーアート(道路沿い)' (Chain Saw Art (Along the Road)), '多面的機能集落協定団体' (Multifunctional Settlement Agreement Organization), '中山間集落協定団体' (Mountainous Area Settlement Agreement Organization), and '自主防災組織' (Self-Defense Disaster Relief Organization).
- Agriculture/Fishing/Disaster Prevention:** Includes '生産力につながる販売への励み' (Encouragement towards sales leading to productivity), '人手が欲しい(就職口として)' (Need for manpower (as a job opening)), '消防団' (Fire Volunteer Group), and '消火団' (Extinguishment Unit).

Legend:

- (Red circle): Local activity range
- (Blue circle): Regional activity range
- (Yellow square): Basic activity range
- ◇ (Green diamond): Small-scale activity range
- ¥ (Yellow symbol): Money from the region
- ¥ (Black symbol): Money from administration



4) まとめ

地元天気図を提示したA班とC班について概略を記載したい。

A班は男性メンバーで構成された班で大阿仁小学校が閉校してしまうことへの不安が一番の課題であるとした。高気圧マークは様々に頑張っている組織等に付けたが台風であるとした「阿仁猟友会」に注目していた。「阿仁猟友会」は肉の販売先との連携が乏しく、宿泊施設等でも肉を扱ってはくれるが、現状では頭打ちであり販売先の拡大次第で大きな台風の目になっていくとの発表であった。

後半では「阿仁猟友会」が「食肉加工場」を設けてより売れるものを作っていくこと、閉校する大阿仁小学校の校舎を大阿仁出張所と公民館の機能を兼ね備えた「new!出張所」とすることで地域の拠点として整備すること等を提案した。地域内でこのような拠点が出来ることで「ススム（北秋田移住定住ネットワーク）」と「new!出張所」の連携が強化され、特にマタギ希望者の問い合わせには「阿仁猟友会」がしっかりとサポートする仕組みを作ることとした。将来的にはマタギが増え、捕る肉も増えることで安定供給可能な「食肉加工所」が働く場所としてさらに発展するのではないかという検討内容であった。

C班は女性メンバーで構成された班で、前半では比立内駅舎内の「阿仁比立内がっこステーション」が現在も取組を頑張ろうとしており、これからも様々に活躍すると期待し高気圧であり台風であるとした。また、働き口としての「農林産物加工所」とその商品を販売する「道の駅の直売所」は取組む人が増えることと、より連携することで今以上に良くなると考えたことから、温暖前線と寒冷前線の両方で結んだとのことである。

後半では地域の財産を大切にしながらも、外部の目線も取り入れた仕組みが必要と考えたことから、比立内駅舎を活用し「阿仁比立内がっこステーション」をコワーキングスペースだけではなく、外部からの人が立ち寄る駅に適した機能として「バー（飲み屋）」を設置したらどうかという提案がされた。いずれは地域住民、あるいは訪れた人が「阿仁比立内がっこステーション」をいつでも利用し常に人がいる場所として地域の拠点にしたいという考えを発表した。

掲載はしていないが、B班について簡単に記載する。前半では自治会の活動が見えにくいことと、一部の自治会の連合団体である「中央連絡協議会」等との関係も希薄で連帯感がないことに課題を感じている。高気圧としてはマタギを挙げており、成り手が少しずつ移住してきているという動きを大事にしたいとした。また、C班同様に「阿仁比立内がっこステーション」は整備が進むにつれて台風の目になるとした。後半では「阿仁比立内がっこステーション」を女性の集う場として整備し、いずれ廃校になる大阿仁小学校の跡地を地域運営の拠点（レンタルオフィス）にすることとした。マタギに誘引された移住希望者も逃さず引き込む仕組みを構築することも重要であると考えている。

⑧ 北秋田市報告会の開催概要

1) 目的

コミュニティ生活圏形成事業の概要と大阿仁地区での取組の成果を基に、手法や手応えを北秋田市全体に発信・共有する目的で行われた。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2022年3月6日(日) 14:00-16:00
- ・場所 北秋田市民ふれあいプラザ コムコム
- ・参加 37名

■次第

第一部 講演 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩 氏

2020年代は田園回帰の時代

～北秋田市の地区別人口予測の概要と全国的な先進事例の紹介～

第二部 パネルディスカッション

コミュニティ生活圏の形成に向けて

～今こそ定住と暮らしの土俵をつくる！～

コーディネーター 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩 氏

(1) 大阿仁地区からの取組報告

報告者 大阿仁地区 佐々木 宗純 氏
大阿仁地区 斎藤 美奈子 氏

(2) パネルディスカッション

次世代の定住増加への課題や手法、そして地元での暮らしを支える仕組等について

テーマ1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

テーマ2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

テーマ3 集落内外の団体や、子育て、福祉、農林分野などをつないでこ
んな仕組をつくりたい

ま と め 今後に向けての抱負を漢字一文字で

大阿仁地区 佐々木 宗純 氏

大阿仁地区 斎藤 美奈子 氏

やってみよう！北秋田 会長 小塚 雅生 氏

北秋田市市民生活部生活課 木村 寛二 氏

■当日の様子



3) 内容紹介

本報告会では一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長 藤山浩 氏より本事業に関連して「2020年代は田園回帰の時代」という演題で講演いただいた。その後、ワークショップ参加者に成果を発表いただいた。パネルディスカッションでは地元住民等、4名の方々に登壇いただき与えられたテーマに対してキーワードを回答し、その意味するところを説明いただく形式で執り行った。このパネルディスカッションの内容について抜粋し要約する。

テーマ1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

斎藤氏キーワード 「40代～60代の親世代」

自分の子どもに自信を持って地元に戻って来いと言っていない気がする。若者世代の流出はこの親世代の責任も大いにあると思っている。

小塚氏キーワード 「知名度」

良いことをやっても知ってもらわないと意味がない。「北秋田市はこういうことをやっているところなのか」と、外の人を振り向かせることが大切。

テーマ2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

佐々木氏キーワード「集落の終活」

この地で最期を迎えたいという思いを持っていても出て行かざるを得ない高齢の住民が多い。最期まで地域で見守っていけるような取組が必要だ。

木村氏キーワード 「大阿仁小学校」

閉校が確定している大阿仁小学校の空き校舎の利活用を今から考えていきたい。

テーマ3 集落内外の団体や、子育て、福祉、農林分野などをつないでこんな仕組みをつくりたい

佐々木氏キーワード「共通点さがし」

地域内には役目や役職が多過ぎるくらいあるが、やることには共通点があるように思えるので、それを見つけて効率良くすることで住みよい地域になると思う。

小塚氏キーワード 「いなかアライアンス いなかワールド いなかチーム」

地域内外で連合・連盟を作りたい。他の人のために自分が出来ることはする。自分が出来ないことは出来る人が助けてくれると、色々なことに取組めるはず。

まとめ 今後に向けての抱負を漢字一文字で

斎藤氏キーワード 「磨」

0から始めるのではなく、すでに1になっているものがいくつもある。私たちの役目は1が10になるように磨いていくことだと思っている。

⑨ まとめ（成果と委託機関による方向性の提示）

大阿仁地区では自治会ごとに、あるいは一部の複数自治会による連合組織の活動が維持されており現段階では新たな単位としてコミュニティ生活圏を具体的にイメージ出来る段階には至っていない。本取組は参加された住民の皆様によって大阿仁地区がコミュニティ生活圏として意識され、構想されていくためのきっかけと捉えることが出来る。

人口分析からは良好なデータは示されず、若い年代の女性の減少が著しいものとなった。予測される人口減少のスピードも相当早いものと推計され、他地区と比較しても特に女性人口の取り戻しを重点化しなければならないことが伺われた。ヒアリングにおいて地区の実情を伺った際には「諦めムードが漂っている」、「移住者を増やすイメージが沸かない」、「小学校がなくなってしまう」等の声が聞かれ、どこか衰退傾向を当然のこととして受け止めている気配があるように感じられた。

ワークショップ（1回目）の人口増減要因分析では、若者が希望する職場がなく、女性は特に進学した先からは戻って来ないという減少要因を分析した。増加要因はそれほど多くの検討はなされなかったが、これからに向けてマタギが人を呼び込むカギではないかとの意見が挙げられた。都会にしかないものを大阿仁地区で追い求めても意味がない。「ないものはない」と覚悟を決めて大阿仁地区ならではのマタギのような魅力・財産を磨いていくという意識を持つことは大切である。人口安定化シナリオづくりでは現実版として検討された数値目標では全ての班で人口が安定化しないものとなった。理想版ほどの数値目標でなければ人口減少を止めることは出来ず、予想される人口減少が深刻なものであるという認識が参加された住民に共有される機会となった。

ワークショップ（2回目）では大阿仁地区の現在と将来を天気図に描く作業を行った。大阿仁地区内の組織や団体を客観的に評価し、地域の維持・活性化に関わる議論がなされた。その中でコミュニティ生活圏を構想するに当たって重要な要素となる地域の拠点に関しては、大阿仁小学校校舎の閉校後の利活用が関連していくものと思われた。漠然と地域拠点としてという案もあったが、大阿仁出張所と公民館機能を融合した施設として、あるいは五城目町の「BABAME BASE」のような活用法等、具体案を検討した班もあった。その他にも「ススム（北秋田移住定住ネットワーク）」と連携した移住相談窓口、子どもの拠り所とすべく学童施設や簡易的な塾としての利用、大人の集う場としての利用、高齢者支援の拠点、多世代交流の場、あるいは食肉加工施設としての利用等、様々な事柄が検討の範囲に入って来るものと思われる。また、拠点施設とするならば何をもって拠点とするのか、コミュニティ生活圏形成と関連させながら十分な議論が必要となる。廃校舎となることは日付まですでに確定していることなので、間髪を入れずに利活用が始められるよ

うに他地区の事例も参考にしながら方向性を検討し、しかるべき予算の確保もしていただきたい。

また、大阿仁地区全体を活気付けていくものとして大きく2つの魅力・財産（テーマ）が話し合われた。

1つは開所したばかりの「阿仁比立内がっこステーション」も含む駅舎の有効活用に関することである。詳細には触れないがワークショップでは女性の集う場としての機能も検討されていたので、さらに踏み込んで女性専用の移住相談所・移住後のフォローの場としての機能も検討いただきたい。地区内の駅の賑わいは地域住民にとっても快いものである。また秋田内陸縦貫鉄道を利用し訪れた人に対しては大阿仁地区に明るい印象を与える。地域内外の交流拠点として地域の玄関口として大阿仁地区全体で盛り上げ運営が継続される仕組みを検討いただきたい。

そして、もう1つがマタギである。伝統・文化の観点からはどこの地域も真似できない特別な魅力・財産である。人を呼び込むツールとして考えた場合は、希望者の世話人となるであろう「阿仁猟友会」のメンバーが中心となって必要なサポート体制、あるいは予算措置について行政と連携し話を進めていただきたい。また、伝統を無視するような提案ではあるが男性のみならず女性に対して訴求するような情報発信も検討いただきたい。

終わりに今後に期待する展望を記したい。大阿仁地区には今のところ、地区全体をまとめ上げ、コミュニティ生活圏形成を前進させ得る推進力を有した住民主体は存在していない。したがって中間支援組織や行政によるサポートが必要不可欠である。まずは行政側がどういったサポート体制を作るのか検討いただきたい。差し当たって必要なサポートは小学校の利活用方針の検討会の立ち上げや招集・検討内容のコーディネート（あるいはランドデザインの策定）に関わる事項になるだろう。

また、今後の展開が期待される各種活動が可能な限り有機的なつながりを維持出来るようにサポートしていただきたい。例えばマタギから提供された食肉を利用して「阿仁比立内がっこステーション」でイベントを行うことや、移住希望者情報を関係主体に確実に伝える仕組みの構築、新たな移住者には拠点施設となった小学校で必ず地区を挙げて歓迎会を行うといったことである。関係主体だけが頑張っているという状態ではなく、どのような取組においても必ず地区内の誰かが主体的に動き、苦心している訳なのだから、その取組内容を理解・共有し手伝えることは手伝うという意識を多くの見守る立場の住民にも持っていただきたい。大阿仁地区全体で事に当たっているという一体感を醸成して欲しい。そのためには、そうした活動内容の情報共有の場づくりも誰かが主体的に行っていかなければならない。情報共有の場をどこに作るかということに関しては、やはり地域の拠点施設として整備可能な小学校の利活用案の中に検討項目として挙げていただきたい。そうした中で大阿仁地区という単位がコミュニティ生活圏として徐々にイメージされ、考えが住民の皆さんに浸透していった時には話し合いが次の段階（運営主体の体制、運営予算の確保、人員の配置等）に進むのではないかと期待している。